

会 議 録

会議名	平成 24 年度第 1 回八王子市博物館協議会	
開催日時	平成 24 年 5 月 22 日（火）午後 6 時 30 分～9 時 00 分	
開催場所	八王子市郷土資料館集会室	
出席者	委員	大村のり子、小野一之、田村知美、西嶋佳子、深栖義昭、藤岡換太郎、山中幸生、吉田幸子（50 音順）
	事務局	牛山清志生涯学習スポーツ部主幹（こども科学館担当）・田島巨樹郷土資料館長（文化財課長）・森融こども科学館担当主査・戸井晴夫郷土資料館担当主査、尾崎光二文化財担当主査、木住野直彦郷土資料館担当主査
欠席者	柿崎博孝、田野倉宏和	
議 題	協議事項 1. 平成 23 年度八王子市こども科学館及び郷土資料館事業実施状況と施設評価について 2. その他	
公開・非公開の別	公開	
傍聴人の数	なし	
配付資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ 平成 23 年度こども科学館事業実施状況 ・ 平成 23 年度施設評価 こども科学館 ・ 郷土資料館事業実績（平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月） ・ 平成 23 年度施設評価 郷土資料館 	

<p>会議の内容 (要旨)</p>	<p>八王子市こども科学館の事業実施状況と施設評価について牛山こども科学館館長から説明。つづいて八王子市郷土資料館事業実施状況と施設評価について田島郷土資料館長から説明。</p> <p>— 質疑応答 —</p> <p>小野会長 事務局からの説明がありました。両館ともに良い結果で喜ばしいことだと思います。</p> <p>こども科学館については、話題性の創出に力を入れて、タイムリーなかたちで提供できたのかなと感じています。</p> <p>夏休みの子供番組がヒットしたり、日食という話題があったということで、リニューアル効果が最近下火になってきている状況下、評価できるのではないかと思います。</p> <p>郷土資料館については、‘特別展八王子の絵図’、‘特別展八王子と鉄道’が好評でたいしたものです。昨年度の博物館の状況について、相場でいくと入館者が2割減となっている中、八王子市は上向いている。これはもっともっと評価しても良いのではないかと思います。</p> <p>大局的には、このようなことかとは思いますが、細かい点でいろいろあるかとは思いますが、そのところを各委員さんからご意見・質問等をお願いしたいと思います。</p> <p>平成23年度の話と外れますが、まず、昨日の金環日食について報告願いますか。</p> <p>牛山館長 昨日、観察会を実施させていただいたところですが、吉田委員と大村委員にも来ていただきました。こども科学館前の駐車場にて、午前7時～午前8時の間行いました。参加者は、330名うち大人は182名、子供は148名でした。内容的には、日食メガネを配布したほか、牛乳パック・ダンボール・鏡等を用意し見ていただいたところ。その他、森より随時解説してもらいました。天気も晴れて観察できたので良かったと感じております。</p> <p>また、事前学習会にも多くの参加者が来館いたしました。</p> <p>小野会長 学校の先生にもこども科学館の方から指導をし、その後、学校の先生から生徒に対しても説明がなされたのでしょうか。</p> <p>牛山館長 4月に教員対象の研修を行いました。参加者は69名でした。片倉台小では、大掛かりな観察会が行われたようです。</p> <p>小野会長 ありがとうございます。そうしたことを踏まえて委員さ</p>
-----------------------	--

	<p>んからご意見をお願いします。</p> <p>吉田委員 昨日観察会に参加させていただきました。沢山の人が集まり、場をひとつにして感激する体験は、子供達に大切なことではないかと感じました。</p> <p>また、5月の連休後の事前学習会に2回ほど参加させていただきましたが、常連ではない人達が集まっていました。館内では、親子間で「お母さんも子供の時プラネタリウムをみたのよ。」との話に対し「お父さんが子供の時はどうだったの?」「田舎だったのでなかったんだよ。」など、子供達の心に染み入る会話をされていたことがとても印象に残りました。これは、とても大切なことであると感じました。</p> <p>教員対象の研修69名の参加者については、時期的に新学期、学校の組織づくりの4月なので止むをえないと感じています。</p> <p>事前指導は大変良かったと感じておりますが、一方、事後指導もお願いしたいと思っております。</p>
小野会長	一過性に終わらせないでということですが、事務局から何かありますか。
牛山館長	<p>ご指摘の点注意して行きたいと思います。</p> <p>また、イベントとして、購入されたメガネをもう一度使用してもらおうよう、6月6日の‘金星の日面通過観察会’のほか事前学習も予定しております。</p>
小野会長	では他にいかがでしょうか。藤岡委員さん専門的立場からいかがでしょうか。
藤岡委員	一過性でなく継続性のあるようにお願いしたい。‘宇宙の学校’の内容で、これから先に起こる出来事等の紹介がされていきましたか。
牛山館長	JAXAの先生の講演のなかで、日食の話があったと思います。
森主査	12月に皆既月食の話のほか、金環日食の話をしてもらっています。
藤岡委員	浅川化石観察会は、一回で60名ということでしょうか。
森主査	はい。職員は、私を含め3名です。
藤岡委員	一年間に一回だけですか。
森主査	はい。
藤岡委員	浅川流域など野外を見るのが増えれば良いのではないかと

	<p>感じています。‘南極北極を知ろう講演会’、‘南極・北極を知ろうバスツアー’についての目的と内容についてご説明をいただきたい。</p>
森主査	<p>立川に極地研究所が板橋から移ってきまして、そこで南極・北極の展示が行われて、オーロラなどの映像が見られます。ここは良いのではないかとということで、一回きりではありますが、バスツアーを組みました。その中で、プラネタリウムの中で講演会を開催しました。講師は、南極に3回行ったことがある極地研究所の広報課長さんでした。今年の9月に開催しました。</p>
藤岡委員	<p>極地研究所に行こうとした理由は。</p>
森主査	<p>黒須前市長が以前に行かれて、活用できないかという話がありまして決めた経過があります。</p>
藤岡委員	<p>はい、分かりました。</p> <p>‘はまぎんこども宇宙科学館’の館長に的川さんが就任され、これから積極的に事業を進めていかれると思います。そちらのやり方を参考としてみるのも良いのではないのでしょうか。</p> <p>郷土資料館の評価について、会長が言われたように博物館の入館者が下火のなか、頑張っているのに評価が遠慮がちに感じています。これは、十分誇れるものであり、また一方で発展の余地もあるので頑張っていただけだと思います。</p>
小野会長	<p>では、田村委員。</p>
田村委員	<p>はい。こども科学館に関して、教育普及事業について全て評価が上がっていますが、何か戦略があったのでしょうか。</p>
森主査	<p>教育普及事業について。小学6年生の学習指導要領が変わったことに伴い、6年生を呼ぼうと考えました。この5年間で番組を作ってきましたし、バス代も予算が付けられました。学校と連携して学習番組を見ていただくということが、当館本来の目的であると考えており、結果として学校と連携しプラネタリウムを見ていただくことができました。戦略といえ、5年かかってやっとバス代をつけられたということです。あと、‘宇宙の学校’は、市民団体である‘宇宙の学校後援会’という団体がありまして、こちらの団体から「ぜひやりたい。」との話を平成22年度に持ちかけられまして、平成23年度に1回目を実現できました。市民の方から持ちかけられたと</p>

いうのは大きいのですが、プラネタリウムを使って開校式を行ったり、こども科学館の事業にびったり合致して大変ありがたく思っております。また、‘宇宙の学校実行委員会’というのがありまして、スポンサーとなっていていただいてます。‘宇宙の学校後援会’という市民の方の団体がありまして、実は市は一銭もお金を払っていません。そういう中で、最初は、親子80組4回のコースで、参加者は非常に喜んでおりました。‘宇宙の学校’を全国的に推進しているのがJAXAの的川先生であって、八王子は相模原の近くであって、人口が多いところであるので、先生が「ぜひ八王子で。」と言っておられたようで、そこへ‘宇宙の学校後援会’がやりたいという希望が重なり、当館が実施場所として受け皿となりました。

平成24年度につきましては、八王子桑志高校の校長先生が非常に協力的で、八王子桑志高校でも4回講座を行いたいということで、今年度は2コースを予定しています。今度の金曜日に総会が予定されています。今後、地区ごとに展開できるのではという状況です。

あとは、イベントについてですが、科学館本来の事業ではないでしょうが、鉄道模型の実演を行うことにより、普段見えない方が来館し、年齢層の拡大に繋がっているのではないかと考えております。

小野会長 はい。深栖委員どうぞ。

深栖委員 来年に向かって継続性のあるイベントに関係してですが、両方の館共通の事業を行うというのもひとつかなと考えております。今回の例で考えますと、‘八王子の鉄道’あるいは‘鉄道’などといったことも可能ではないでしょうか。金環日食に代わるもので、学校の先生が指導可能なもので、教育イベントに仕上げる。具体的にやり方としては、CATVと連携するとか、ホームページを使って学校の先生等に2ヶ月に1回とか研修を行って行くということが良いのではないのでしょうか。

両館共通した‘教育’に仕立ててみてはいかがでしょうか。

こどもの教育という面で良いのではないかと思います提案させていただきました。

牛山館長 鉄道については、熱心な来館者が多いです。

深栖委員	年間を通して、計画的にできるようにしては。
田島館長	こども科学館と連携して検討していきたいと思います。
森主査	こども科学館における鉄道関係のイベントとしましては、 ‘大型鉄道（機関車トーマス）に乗ろう’があります。当館 で一番来館者の多い事業です。5月5日と9月か10月に行 うわけですが、第二駐車場に線路を引きまして、港区にある 芝学園技術工作部が、機関車トーマスの版權の持ち主である ソニーに許可をもらって車両を作成し、運営も自分達で行う イベントを開催しました。
深栖委員	深栖委員が指摘された‘教育に仕立てる’ことについて、 館長と共に検討して行きたいと考えております。
小野会長	ホームページに写真付でこのようなことを行いましたと、 結果を出してみるのも良いのではないのでしょうか。
西嶋委員	西嶋委員どうぞ。
大村委員	夏休みに自分の興味を持ったことについて、‘調べる’とい う場にするのも‘教育の場’になるのではないのでしょうか。 高校では地学の先生が少なく、そこで興味があることが途 切れるのはもったいない。大きな子にも興味を持って関われ るものがあつたら良いのではないかと感じています。
森主査	何年か前に小学校の先生で「理科の範囲が広く、教員で賄 えないところを科学館でフォローしてもらえないか。」という 話を聞きました。そういうことができたなら良いのではないかと 考えていますが、出前講座とはどういうものなのかご説明 いただきたい。
森主査	出前講座は、学校から依頼が来ております。多いのは、学 校の本授業ではなく、行事のような関係で申し込みがありま す。平成23年度は2校、平成22年度は3校ありました。 主導権を取っているのは保護者でした。学校が午前で終わる 日の午後に時間として1時間程度依頼がありました。内容は、 実験と工作でした。講師代は無料、材料費は呼ぶ側負担とな ります。事前に工作・実験の内容を相談します。当日2名程 科学館から講師を派遣し1時間程講座を開催します。
森主査	出前講座については、あまり知られていないせいか依頼は 少ないです。
森主査	西嶋委員が、‘大きなお子様に範囲を広げるように’という ご指摘がありました。本当に来て欲しい中学生や高校生の

	<p>来館が少なく苦慮しているところです。</p>
西嶋委員	<p>小田原では、研究成果をまとめて発表するコンクールがありました。</p>
小野会長	<p>利用者の幅を広げて行く方策として、名称の‘こども’はネックにならないでしょうか。</p>
牛山館長	<p>正式名はこども科学館で、愛称名はサイエンスドームです。 通常は、サイエンスドームの名称を広報等で使用しております。お子さんが来る際には、親もしくは祖父母と一緒に来館されありがたいことですが、来館者の年齢層を上げることは課題だと思っております。</p>
小野会長	<p>山中委員。</p>
山中委員	<p>事業終了後、アンケートをとっていますか。</p>
森主査	<p>とっていません。</p>
山中委員	<p>広く調査する意味で、アンケートを取るということは必要でないかと思えます。来館者・興味の分布が分かり、事業実施が展開し易いのではないのでしょうか。 また、イベント関連の広報的な面についてお伺いしたい。</p>
牛山館長	<p>広報手段として効き目があるのは、小学校を対象にするのが大きいと考えております。</p>
森主査	<p>ホームページで知るケースも多いのではないかと思います。</p>
山中委員	<p>子供達がどういうことに興味を持っているか把握した方が良いのではないのでしょうか。</p>
小野会長	<p>田村委員どうぞ。</p>
田村委員	<p>郷土資料館の施設評価を拝見すると、評価の数字が連動していないように思える。具体的には、7番の入館状況の入館者数（特別展期間）の評価数字3と8番の展示の評価数字5、所蔵資料の充実の評価数字5に対して資料の提供の評価数字が4、9番の教育普及事業の外部への職員派遣の評価数字3と11番の地域との協働・連携の評価数字5といったように矛盾が見受けられる。両方が良い方向にもって行ける評価ができれば良いのではないかと考えますがいかがでしょうか。</p>
田島館長	<p>まず、目標値の設定の方法ですが、田村委員のおっしゃられたように、この目標値の設定がいいのかどうか若干不安がありました。実際には数値で書ける部分と書けない部分があるので、委員さんにご相談のうえ変更して行きたいと考えて</p>

	<p>おります。</p> <p>尾崎主査 委員さんもおっしゃられたように、あくまでも数値目標を掲げているのに、それをクリアしていなければクリアしていることにすることはできません。一方、特別展については、内容的な面で評価をされているので、高い数値を掲載いたしました。外部講師派遣と市民協働の部分ですが、出前講座の件数が半減している関係で評価は低くなっていますが、目標値に近い件数となったため‘ほぼ達成’できたという評価をいたしました。市民協働部分につきましては、内容をとって評価を5としております。講師派遣については、数値でとらえているため若干の違いが生じてきている状況です。</p> <p>施設評価については、2年前より作り始めていますが、館長が言われたようにこれから委員さんの意見を聞きながら工夫して行きたいと考えています。</p> <p>山中委員 自己評価の値等も皆さんが作られて評価をしたのであって、外部から評価項目を提示され評価をしたのではないのですね。</p> <p>尾崎主査 元々は事務局で自己評価シート（案）を作り、協議会で検討し改訂していったものが現在のものとなっております。</p> <p>山中委員 内容的な評価と数値的な評価が混在しているのが分かりにくい原因ではないでしょうか。せっかく特別展の内容は良かったのに、‘入館者の数が目標値に達しなかったため評価が低かった’というある意味矛盾した評価となってしまったのではないか。</p> <p>分けたかたちで評価をした方がよいのではないのでしょうか。</p> <p>田島館長 分けて作って行きたいと考えています。</p> <p>小野会長 評価を評価する意見が出てきたわけですが、欠けているのはコスト関係と数値目標的なこと。これを踏まえて、次年度新しい評価ができれば良いのかなと思います。</p> <p>吉田委員 吉田委員どうぞ。</p> <p>吉田委員 両館の防災・危機管理体制について伺いたいと思います。火事・地震・津波・不審者、最近では竜巻に対する危機管理体制が求められてきており、知らないお子様などを過ごさせるわけなので、消防訓練だけではいけないのではないかと感じております。あらゆる危機に対応したマニュアルを作成し</p>
--	--

	<p>ておいた方が良いのではないのでしょうか。</p> <p>それから、収入金の使い方はどのようになっているのでしょうか。</p> <p>田島館長 防災関係についてですが、①生命・安全の確保②施設の破損状況等の報告③帰宅困難者の対応等の危機対応ができるような体制をとっているところであります。</p> <p>収入の使い方についてですが、郷土資料館では入館料を取っておりませんので、基本的には、図書の売り上げ収入や博物館実習費などです。図書に関してですが、現年度に発行した図書の売り上げ収入については、郷土資料館の運営費に充てられますが、前年度以前に発行した図書の売り上げ収入は、一般財源として市の歳入、つまりは全体の中に吸い込まれてしまいます。また、博物館実習費については、負担金ですので必要経費に充てています。</p> <p>郷土資料館は以上です。</p> <p>牛山館長 危機管理体制は整えて行きたいと考えています。</p> <p>収入の関係ですが、入館料については歳入としてカウントしておりますが、歳入が増えたからといって歳出予算が増えるというわけではありません。</p> <p>山中委員 難しいですね。がんばっている見返りが欲しいですね。</p> <p>小野会長 防災面については、非常時にはやはり公の施設ですので、人が集まってきます。よって、備蓄の方も考えなくてはならないかもしれませんね。</p> <p>歳入については、いくら頑張っても褒美が無い状況が分かりましたが、次年度の予算等にうまく反映できるよう、また長期的な視点で活用できるよう、協議会が主体となって意見が出せれば良いのではないかと思います。</p> <p>以上、各委員さんからご質問等無いようなので、平成24年度第1回博物館協議会を閉会いたします。</p>
--	---